



第39回七尾市民音楽祭 ～ふる里の春夏秋冬～



3月6日（日）：七尾サンライフプラザ

七尾市民音楽祭は、七尾市にいろいろな音楽祭がある中で、代表的な音楽祭とされている。

毎年開催され、『洋楽部門』と『邦楽部門』を隔年で開催。今年は『邦楽部門』。20団体が日ごろの修練を積んだ成果を発表。演目の区分けは『春夏秋冬』に分けられ、四季折々の邦楽が披露された。会場は満席となり、観客の熱気に包まれていた。出演者たちは会場の雰囲気を使い緊張感に変え、晴れの舞台を楽しむかのように演奏・演技していた。



百寿 100回目の誕生日、おめでとうございます



小川千代野さん
明治44年3月1日生



宮崎クニさん
明治44年3月3日生



姥浦ヨシミさん
明治44年3月4日生



田中鈴栄さん
明治44年3月22日生

これからもお元気で。



2月20日（日）：和倉温泉観光会館

「旅館の板前さんの料理を食べたくても宿泊しないと食べられない」「板前さんの日ごろの技術などを披露する場を」。そんな声に応えるために初めて開催された『美食グルメ博覧会』。出品された料理は19品目。会場を訪れた地元の人や観光客は2品、3品と食べ回り、満足気な表情。取材をした皆さんが同じことを言う。「好きなものを少しずつ食べられるのがうれしい。また開催してほしい」と、初めての試みに来場者の評価は高かった。

和倉温泉『美食グルメ博覧会』
料理人たちの一品を食しよう！



2月13日（日）：サンビーム日和ケ丘

よさこいや伝統芸能など、各地域を盛り上げている石川県内の青年たちが七尾市に集まった。全国青年大会の出場を賭け、舞台いっぱいに体いっぱいで表現し競い合った。数カ月間にわたり準備してきた七尾市青年団協議会の野崎会長は「盛大に終わることができたのも協力してくれた人たちがいたからこそ。皆さんに感謝しながら、今後も七尾を盛り上げたい」と話す。地域を愛するこの青年たちが一致団結し、地域を盛り上げる原動力となることを期待したい。

第29回石川県青年文化祭
地域を愛する青年たちが集結！



2月26日（土）：七尾サンライフプラザ

七尾市に在住する外国人は15カ国460人（平成23年2月28日現在）。主催した七尾市国際交流協会は、外国人とともに安全で安心に暮らせるまちづくりを目指し、『国際交流のつどい』を開催した。プログラムでは太鼓やマジックを外国人が披露したり、参加者全員で『市民のねがい』を三唱したりするなど、大変な盛り上がりを見せた。この活動をきっかけに、国境を越えた住みよいまちづくりになることを期待したい。

国際交流のつどい
いっしょに楽しまんかいね！



2月24日（木）：七尾サンライフプラザ

前身の若林スポーツ賞・教育奨励賞・学校職員表彰が、平成20年から『教育活動をたたえるつどい』に代わり、今年で35回目。名誉ある表彰式となっている。今年は教諭4人、児童生徒141人が受賞。文部科学大臣優秀教員に選ばれた高山隆史先生（中島小学校）は「私1人の受賞ではありません。すべての方々に感謝」と感極まり涙を流す場面も。今回受賞した皆さんは、教育振興の向上やスポーツ技術向上など、『今後も、さらに努力』を感じる機会となった。

平成22年度教育活動をたたえるつどい
『今後もさらに努力』



2月28日（月）：七尾市役所

小丸山小学校が「七尾をPRしよう」をテーマに、観光ポスターやパンフレットなどを制作する企画実施をした。制作にあたり、テーマごとにグループに分かれて、資料を調べたり、現地へ行って写真を撮ったり、直接お店の人などに聞き込みを行った。プロ顔負けの出来栄に武元市長は「今すぐにでも使えるポスターばかりで素晴らしい」と絶賛。子ども目線からのデザインや内容が新たなPR効果を発揮することに期待したい。

観光ポスターお披露目（小丸山小学校）
プロ顔負けの出来栄に！



2月27日（日）：いしかわ子ども交流センター七尾館

28回目を迎えた『将棋・オセロ大会』。参加した子どもたちは128人。将棋部門では23人が参加。少年棋士たちは、先を読みながら一手一手を繰り出し、盤上での白熱した勝負が繰り広げられた。オセロ部門では105人が参加。将棋と違いお互いにテンポよく『黒石』『白石』が置かれ、盤の角に置かれると「あちゃーっ」と言う子どもが。将棋もオセロも、思いもかけない相手の一手に顔をしかめる姿が印象的だった。

第28回市子連将棋・オセロ大会
盤上の勝負に挑む子どもたち！